

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	2	地域資源等を活用した交流拡大に向けた受入体制の推進	
事業名	①	観光客おもてなし環境整備体制強化事業【新規】	
担当課名	観光商工課		所属長名 安 永 佳 秀
関係課名	総務課		

1. 事業の目的			3. 実施内容（取組状況）			
○宿泊施設の新築、増改築、改修工事等を実施する者に対し支援を行うことにより、町内の宿泊施設の受入環境の充実を図り、国内外からの交流人口の拡大、観光振興及び地域経済の活性化につなげる。			○宿泊施設受入体制支援事業補助金実績（繰越分） ・旅館 7件、17,277千円 ・簡易宿所 4件（うち新規2件）、11,148千円 ・ホテル 1件、2,995千円 ・農林漁業体験民宿 2件、1,427千円 ・計14件、32,847千円）			
2. 事業の概要			○宿泊施設受入体制支援事業補助金実績（現年分） ・旅館 4件、7,379千円 ・簡易宿所 4件（うち新規1件）、9,631千円 ・計 8件、17,010千円			
○宿泊施設（農林漁業体験民泊を除く）の受入環境整備補助金 ・補助率 2/3以内、 ・補助上限額 3,000千円以内			○観光・防災Wi-Fiステーション整備委託料（繰越分） ・6,432千円			
○農林漁業体験民宿の受入環境整備補助金 ・補助率 1/2以内、 ・補助上限額 1,000千円以内						
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	56,289千円	3,215千円		3,200千円	49,864千円	10千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○本事業により、多くの宿泊施設が受入環境の整備を行うきっかけとなったこと、特に新たに3件の宿泊施設ができたことにより、国内外からの観光客の受入体制の整備が図られた。			○本事業により、多くの宿泊施設の受入環境の整備が図られたが、世界遺産登録効果で増加すると予想される国内外からの観光客を受け入れるためには、宿泊施設の受入体制の整備はまだ十分であるとはいえない。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○世界遺産登録効果で増加すると予想される国内外からの観光客を受け入れて交流人口の拡大及び地域経済の活性化を図るためには、町内の宿泊施設の受入環境の整備は必要不可欠であり、今後も継続して本事業に取り組んでいく必要がある。						

担当課評価	A	○「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録を目前に控え、国内外からの交流人口の拡大を目指し、更なる観光客受入体制の整備に取り組んでいく必要がある。今後は、地方創生交付金を活用し事業を継続すべきである。
委員評価	A	○観光客受入体制の充実を図るため、今後も事業を継続すべき。 ○他の宿泊施設の整備につながるよう具体的な整備内容を示すべき。

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	2	地域資源等を活用した交流拡大に向けた受入体制の推進	
事業名	②	ながさき巡礼受入体制推進事業	
担当課名	観光商工課		所属長名 安 永 佳 秀
関係課名			

1. 事業の目的						
○「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のユネスコ推薦を受け、上五島への巡礼客や各メディア、教会に関する問い合わせ対応などが多くなっている。信者の祈りの場である教会(天主堂)をきちんとした形で紹介し、資産の歴史的文化的な価値を後世へ継承するシステムや巡礼者の受入体制を整える。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○有川港ターミナルに長崎巡礼センター新上五島ステーションを設置し、専門知識を有する常勤職員1名を配置し、世界遺産登録を見据えた観光客受入体制の充実を図る。				○ながさき巡礼受入体制推進事業補助金 1,412千円 ○新上五島町ステーション運営実績 ・巡礼ガイド対応 1,278人 ・ガイド手配 89件、1,203人 ・案内、問い合わせ 286件 ・取材対応 2件		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	1,412千円					1,412千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○教会・巡礼という専門的知識を要する事業であり、ミサ手配や巡礼ガイドなど、行政や観光物産協会でも対応が難しい業務を遂行できた。				○職員1名体制では、ガイド対応時にステーション事務所での対応が出来ないため、教会・巡礼に関する常設案内所としての機能が十分でないことや、関連資産の素材整理、情報発信等の業務に課題がある。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○ながさき巡礼ガイドの育成や、地元信者の協力体制の確立。教会関係のミサや行事など情報集約の仕組みづくりを行い、巡礼者(観光者)と地元信者との軋轢が生じないよう取り組む。						

担当課評価	B	○巡礼客の受け入れ（ガイドやミサ手配等）体制が図られており、今後も継続して事業を実施する。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	2	地域資源等を活用した交流拡大に向けた受入体制の推進	
事業名	③	島の宝を活用した魅力情報発信強化事業（観光）	
担当課名	観光商工課		所属長名 安 永 佳 秀
関係課名			

1. 事業の目的						
○島内に点在する教会群をはじめとする観光スポットなどの島の魅力を多くの方に知っていただき、来島してもらい、情報発信や島内周遊型観光の推進による交流人口の拡大を図る。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○世界遺産登録を見据えて四カ国語に対応した観光ガイドブックや教会拝観ハンドブックなどの情報ツールを製作する。				○観光ガイドブック 80,000部 B5版八つ折 ○教会拝観ハンドブック 7,000部 A5版 P16 ○ポスター2種類 400枚 ○uni-voice（バーコード式文字読み取り）での外国語標記形式を採用（英語・韓国語、簡体字、繁体字）		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	5,124千円	2,562千円				2,562千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○観光ガイドブックを作成することにより、島外に広くPRすることができた。 ○教会拝観ハンドブックは、上五島の教会情報を網羅しており、拝観マナー等も記載し大変好評であった。 ○外国語標記をuni-voiceによる標記にしたため、部数を多く制作できた。また、ポスターは世界遺産を意識した構成で島外に広くPRできた。				○uni-voiceによる外国語標記は、スマホにアプリをダウンロードする必要があるため、文字数に制限があり完全な情報が掲載できないため、訪れた外国人からは評価が低かった。 ○教会ハンドブックは、来島者配布用であり印刷部数が少なかった。今後も観光客の増加が予想されるため、計画的な観光パンフレット等の制作が必要である。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○世界遺産登録を目前にし町内の観光関連等の情報の変更が多くなっているため、観光パンフレット等の情報を更新していくとともに、観光客にとって利便性の高い観光パンフレット等を計画的に毎年制作していく。 ○uni-voice形式による外国語一括標記という新しい取り組みであったが利便性において課題があり、今後は多言語による観光パンフレット等を制作していく。						

担当課評価	B	○観光ガイドブックや教会ハンドブックの制作により、島外への情報発信及び観光客の島内周遊を促進し、交流人口の拡大が図られたが、外国人観光客の受入れに関する情報発信については検討が必要である。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	2	地域資源等を活用した交流拡大に向けた受入体制の推進	
事業名	④	世界遺産登録事業	
担当課名	文化財課	所属長名	湯 川 直 基
関係課名			

1. 事業の目的						
○長崎・熊本県及び関係6市2町が共同で「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」（旧「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」）の2018年（平成30年）の世界文化遺産登録実現を目指すことで、資産の歴史的文化的な価値を後世へ継承するための万全な保護体制の整備や全世界への情報発信及び交流人口の拡大による地域活性化に繋げる。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○平成28年2月の「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の推薦取り下げによる推薦書の見直し、再推薦決定による周知啓発や「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のイコモス現地調査対応及び来訪者の急激な増加に対応するため、秩序ある教会堂の公開に向け祈りの島保全員を配置した。			○平成28年2月の「長崎の教会群」の推薦取り下げにより推薦書の見直し作業を行い、平成29年2月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコへ再推薦され、推薦決定による横断幕設置や登録実現へ向けたラッピングバスによる周知啓発を行った。また、同年10月に予定されているイコモスによる現地調査へ向けた準備を行った。あわせて秩序ある頭ヶ島天主堂の公開を行うため祈りの島保全員を配置し教会堂拝観マナーの徹底に努めた。			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	11,327千円					11,327千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○推薦が一旦取り下げとなったが、推薦書の見直しにより世界文化遺産の国内候補として再推薦され、平成30年登録実現へ向け前進した。また、祈りの島保全員を配置することで教会堂の拝観マナーが向上した。			○推薦書の見直しにより「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」から「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に変更になったことから、世界文化遺産候補としての価値を住民に正確に伝えとともに、保全保護体制を強化し、イコモス現地調査へ向け準備を整える必要がある。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○イコモス現地調査へ向け、住民説明会の実施や頭ヶ島の環境保全を行う。						

担当課評価	A	○推薦書の内容を見直し、世界文化遺産国内候補としてイコモスからの再推薦決定を受け目標どおりに進捗している。
委員評価	A	○2次評価のとおり

評価基準	A	K P I 達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	K P I 達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	K P I 達成のために、要因の分析を要する。
	D	K P I 達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	2	地域資源等を活用した交流拡大に向けた受入体制の推進	
事業名	⑤	日本遺産魅力発信推進事業【新規】	
担当課名	文化財課	所属長名	湯川直基
関係課名			

1. 事業の目的						
○平成27年4月24日に認定された日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島」を活用して、新上五島町の新たな観光資源として魅力情報発信を行っていくとともに、日本遺産の理解を深めてもらうため推進体制の強化を図る。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○日本遺産関連資産の調査研究と調査報告書の増刷 ○日本遺産に関する幅広い住民への啓蒙 ○日本遺産に関する説明案内板の充実			○「日本遺産」関連史跡（山王山・日島の石塔群）に関する調査研究と調査報告書の増刷（五島海道）の増刷 200冊） ○日本遺産「国境の島」講演会と山王山トレッキング（145名）、日島歩き（39名）による魅力発信 ○「日本遺産」（日島の石塔群）に係る既存台座の撤去、新説明板の設（1基）			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	0千円					0千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○町民を対象とした講演会、現地トレッキング、バスツアーを開催するとともに構成文化財説明版を設置したことにより、町民への日本遺産魅力情報発信ができ、認知度を向上することができた。			○「日本遺産」という言葉自体があまり知られておらず、世界文化遺産と比べて認知度が低いことから、まずは町民の認識度向上が必要である。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○町民のさらなる認知度アップを目指して、「日本遺産」講演会や歴史散策ツアーを継続開催するとともに、観光客の誘客にも繋げていく。						

担当課評価	B	○日本遺産認定をきっかけにして、町民が郷土の文化財に誇りを持ち、それが将来にわたって文化財を守っていくことにもつながる。そこで、今後も魅力発信の強化を引き続き実施していく必要がある。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
施策名	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	2	地域資源等を活用した交流拡大に向けた受入体制の推進	
事業名	⑥	祈りの島インフォメーションセンター設置事業	
担当課名	文化財課・観光商工課		所属長名 湯川直基・安永佳秀
関係課名			

1. 事業の目的						
○平成30年7月頃の世界遺産登録を見据え、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の歴史的文化的な価値を正確に伝え、将来に向けて適切な保存・活用を図るため上五島空港ターミナルを活用し”潜伏キリシタン関連遺産”サテライトを設置する。また、上五島空港駐車場から頭ヶ島天主堂をシャトルバス等で運行する「パーク＆ライド方式」の試行、検証により世界遺産登録に向けた受入体制の構築に取り組む。						
2. 事業の概要				3. 実施内容（取組状況）		
○上五島空港ターミナル内を利用し「潜伏キリシタン関連遺産」等の案内・展示室を委託により管理運営し、あわせて来訪者を頭ヶ島白浜地区までシャトルバスで送迎する「パーク＆ライド方式」を実施し試行、検証する。				○祈りの島IC管理運営委託（5月～11月） ○パーク＆ライド試行（5月～11月） ・シャトルバス運行・駐車場整理員配置 ○頭ヶ島観光調査		
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	16,929千円	7,970千円				8,959千円
4. 事業における成果				5. 事業における課題		
○平成30年7月頃の世界遺産登録を見据え、歴史的文化的な価値を正確に伝え、将来に向けて適切な保存・活用を図るための一定程度の基盤整備ができた。				○平成30年7月頃の世界遺産登録を見据え”潜伏キリシタン関連遺産”のサテライト（祈りの島IC）を設置し、あわせてパーク＆ライドを土日祝日と繁忙期に運営したが、完全（年中）実施に向けた運営体制の強化、IC展示品の充実と案内人のスキルアップが課題である。		
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○平成30年7月頃の世界遺産登録に向け、サテライト（祈りの島IC）及びパーク＆ライドの完全（年中）実施に向けた運営体制の強化を図る。						

担当課評価	B	○平成30年7月頃の世界遺産登録へ向け目標どおりに進捗しているが、サテライト（祈りの島IC）及びパーク＆ライドの完全（年中）実施に向けた更なる運営体制の強化が必要である。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。